

第3回吉備中央町健康影響対策委員会 議事概要

日時 2024.1.24 (水) 18:00~19:50

場所 吉備中央町賀陽庁舎 2階中会議室

議題1 原因究明に関わる情報共有について [資料1]

(資料1に基づき事務局から説明)

- ・ フレコンバックから PFAS が溶出し始めた時期が何年前からなのかが重要な点である。非常に高い濃度が検出されているので、例えば、雨が降ったことで表層部分が流れていった等の情報があればよりよい。
- ・ 第1回委員会で聞いた情報よりもかなり長い期間、この汚染源があったということがよくわかった。

議題2 吉備中央町における有機フッ素化合物による健康影響調査結果 (中間報告2)

[資料2]

- ・ 以前の中間報告書1では、2022年度の特健康診査と後期高齢者健康診査データ分析等を行った。今回は引き続き過去に遡るということで、2013年度から2021年度の特健康診査と後期高齢者の健康診査データの分析を以前と同じ解析方法で行った。
- ・ 特健康診対象者は特健康診査、後期高齢者健康診査を受けられた方で、円城地区とそれ以外の方を比較した。
- ・ 結果指標は、健診項目のLDL、HDL、トリグリセライドとAST、ALT、 γ GTPとしている。それらが基準値以上か、HDLに関しては基準値未満かを確認している。また、性別・年齢・BMIの影響を加味した解析をした。
- ・ LDL (図1)に関してはこの10年間では特に上昇は見受けられなかった。
- ・ HDL (図2)に関しては、2016年、2017年で少し上がっているが、最近増加している傾向にはない。
- ・ 中性脂肪 (図3)に関しては、2014年と2017年で少し上がっているが、最近増加している傾向にはない。
- ・ 肝機能 (図4, 図5, 図6)に関しては、これらも同じように途中上がっている年もあるが、最近増加している傾向にはない。
- ・ 今後は、出生情報とか今後の情報を前方視的に見るということが必要になると考えられる。
- ・ また、特健康診でカバーされない方のデータの回収等を検討する必要がある。
- ・ 特健康診を受診してもらい、長期的に追跡するだけでは、住民の不安解消への納得は得にくいと思われる。住民の不安を受け止めていることが伝わる対策が必要だ。
- ・ 委員会としては、現状の科学的理解に照らして住民の方の健康問題を考えた上で、科学的に正しいことを助言するのが仕事だと考える。
- ・ 一方で、現場で住民の方と向き合っている先生方の役割は、不安に思っている方へのケアを行うことであり、現場で対話するということはとても重要である。その点は、分けて提言に盛り込む必要がある。

議題3 円城浄水場の水を飲用した地域住民等の健康への影響と対策に関する意見取りまとめについて [資料3]

1 健康状況の把握について

- ・ 住民の健康状況については、中間報告1や2のような集団データの分析を行い、増加傾向がないことを確認する。こうした評価スキームによって、不安を軽減していくことも必要ではないかと考える。
- ・ 健康状況の把握については、特定健診などの通常の検査項目以上の検査は必要ないと思われる。また、追加の検査については、意義と問題点を十分に理解し、実施するか判断すべきであると考ええる。

2 相談体制の整備・健康に関する情報発信について

- ・ 町広報誌等を活用した情報発信や対面で住民の話を聞く機会を設けるなど、住民の不安や相談に応じられる体制を維持していくことは必要である。
- ・ 委員会のこれからの責務としては、まずは町の職員、あるいは地域医療従事者、保健所の職員等の住民の健康を守っていく立場の皆さんに、住民の方と対話ができる情報を提供することである。
- ・ 必要に応じて、直接、専門家が説明するような住民説明会を開催することも大切であるが、常に住民の方々と対面されている方がしっかり説明できるように、我々がサポートすることが重要である。
- ・ 専門家が、地域の住民と対面されている方々に対して適切な助言をできるような体制を作るといふこと、住民に対しては、現場の方々がしっかり対話ができるような体制を作るといふことを提言してもいいのではないか。

3 健康診断の実施等について

- ・ この項目では、住民の方の関心が高い血液検査に関することも含まれるので、先日の住民有志の会が実施した血液検査結果も踏まえて協議したい。
- ・ この項目と「1健康状況の把握」は、よく似た内容となっているので、整理した方がいいのではないか。
- ・ 「1健康状況の把握」の中に健康診断の実施は含まれると考える。
- ・ 「1健康状況の把握」として、住民が自身の健康状況を把握することが重要であることから、「1健康状況の把握」において、取水を止めてからの現在の血中濃度とそれから5年後等の状況を把握するような対策を取るようなことも考えられる。
- ・ 「1健康状況の把握」で健康状況をモニタリングし実態を把握した上で、この項目で住民の方から要望のあった、調査・研究についても提言してみてもどうか。
- ・ もし研究を行うとすれば、体内半減期に関する研究が考えられる。
- ・ 調査・研究に関しては、今後の将来の科学や、人類にとって利益にはなるけれども、住民の不安の解消というような視点から考えた場合には、直接の利益にはならないことも考慮しないといけない。

- ・ 調査・研究としてやったほうがいいことと、住民の健康を守るということは分けて、我々は提言すべきである。
- ・ 研究・調査については、委員会から町にやりなさいというものではないため、健康影響に関する科学的知見の取りまとめを行う位置づけである今回の提言では取り扱わず、別の機会においてまとめてもいいかもしれない。
- ・ 血液検査については、別途、項を分けて、その中で科学的な知見とともに検査の意義と懸念をしっかりと指摘することが重要ではないかと思う。
- ・ 提言書の構成としては、最初に既存の枠組みを使った、健康影響に関すること、妊産婦及び子どもに関すること、情報発信・相談体制の3項目を持ってきて、最後に血液検査等について記載する方向で検討してみてはどうか。

4 妊産婦や子どもに関する対策について

- ・ 低出生体重児である 2500g 未満の子どもは、日本だと約 8%から 9%だと推測されるため、吉備中央町の人口では年ごとの調査は困難だと思われる。
- ・ 町の保健師、助産師、あるいは医療関係者の皆さんが妊婦の方、産後の方、子育てされている方に対してしっかり助言できる体制が必要だ。
- ・ 町外で出産される可能性もあるので、町外の出産を希望される医療機関等にも情報提供できる体制が必要ではないか。